

# 東京新聞 次世代研究所 やさしい日本語

若い世代の新聞離れがいわれて久しい。本紙は若手有志でつくる「次世代研究所」を中心に、紙面への意見を聞く「ダメ出し会議」などを通じて、若者にも読まれる新聞づくりを試みてきた。今回は、日本で暮らす外国人に情報をわかりやすく伝えるため考案された「やさしい日本語」の取り組みをヒントに、読みやすい紙面を考えた。

## 読みやすい紙面とは 一橋大国際教育センター 庵功雄教授に聞く

### 日常の言葉でシンプルに



そもそも「やさしい日本語」とは何だろう。研究者で著書もある一橋大国際教育センターの庵功雄教授(51)によると、日本語の会話や読み書きが十分できない外国人のために、わかりやすい表現にした日本語だという。その特徴や新聞づくりへの生かし方を聞いた。

—日本人が普段使う日本語との違いは。

基本は敬語を使わず、「ですます」調にします。難しい熟語や慣用語もわかりやすく言い換えます。例えば「避難」は「逃げること」、「ご参集ください」は「集まってください」のように。

1995年の阪神大震災で情報から孤立した外国人が大勢いたことから、弘前大の佐藤和之教授が、災害時に簡単な日本語で伝える取り組みを始めたのが最初です。以降、行政などでも取り入れられ、外国人労働者が増えている最近では、災害時に限らず日常生活でも必要とされています。

—新聞記事にも活用できますか。

行政などで「やさしい日本語」を使った結果、外国人だけでなく、障害者や高齢者、子どもにもわかりやすく、役立つとの声がありました。

日本人同士のコミュニケーションにおいても重要だといえます。新聞は記事を読んでもらい、内容が伝わらないといけません。「難しい」「わからない」という声があるなら、わかるように伝える努力が必要で、そこに「やさしい日本語」を生かせる可能性はあると思います。

—「やさしい日本語」の視点で新聞への指摘を。

「日常生活で使うの?」と感じる言葉が多くあります。例えば「震度6強の揺れに見舞われた」という表

現は、「震度6強だった」でいいでしょう。同じ事件の続報記事の導入部分で「～の事件で」とすると、難しい印象になります。

記事が、前提知識がある人向けになっています。一般的な記事では前半にニュース、後半にこれまでの経緯が書かれていますが、初めて読む人にはこれまでの経緯が先にあって、今の状況へと続く方が読みやすいはず。情報を伝える時、できるだけ皆がわかるようなつくりにするのは基本です。

—では、どうしたら。

小学校高学年から中学生が読むと想定して書くことです。文の構造をシンプルにし、一文を短く。若者向けなら横書き、洋数字のほうが読みやすいでしょう。日常で何かを書くのも読むのも横書きに慣れた世代が、縦書きで数段にわたって記事が流れる新聞をよいと感ずる可能性は低いと思います。

若者はニュースに興味がないわけではありません。新たな層に新聞を読んでもほしいと思ったら、面白いと感じてもらうために入り口を広げ、広げたことを知らせることが大切です。



「やさしい日本語」に関する庵功雄教授の著書

平成29年度(2017年4月～2018年3月)に横浜市がすること



横浜市が「やさしい日本語」を活用して予算や財政状況を説明した広報冊子の一部

やさしい日本語、おもてなし

広報に広がるやさしさ 観光に



福岡県柳川市が作った「ハッシー」橋は市民や店主が、傘は観光客が持つ。市の掲げで「やさしい日本語」での観光を牽引する市民モニター 同市提供

「やさしい日本語」は新たなコミュニケーション手段として広がっている。

約160の国・地域出身の外国人9万人以上が暮らす横浜市は、広報紙などの情報を、英語など6言語と「やさしい日本語」で提供。行政でよく使う約600語の言い換えもまとめており、例えば「押印」は「はんこを紙に押すこと」、「開庁日」は「役所が開いている日」などだ。

NHKは2012年4月から、「やさしい日本語」でニュースを発信するインターネットサイト「NEWS EASY」を始めた。

使う言葉や文法は原則、日常生活で簡単な会話や文章の読み書きができるレベルに合わせ、1文は50文字以下、「れる・られる」などの受動態の表現は使わない。ニュース独特の「～としています」などの慣用表現も言い換えている。

福岡県柳川市は観光面で活用。市を訪れる外国人観光客の過半数を占める台湾人に日本語を学んでいる人が多いことに注目し、16年度から「やさしい日本語ツーリズム」の取り組みを始めた。観光客が訪れる店や施設、交流する市民らがわかりやすい日本語での「おもてなし」を心掛け、好評という。

\*明日7日の「やさしい日本語」では、庵教授のアドバイスをもとに、新聞を「やさしい日本語」にすることに挑戦します。

before 実際の紙面 4月18日付本紙朝刊(社会面) 2018年5月18日付本紙朝刊(社会面)

**「おまえは国民の敵だ」**

幹部自衛官野党議員に罵声 問われる文民統制

統幕長が謝罪、処分検討

戦前の軍隊思わせる



経緯は目立たせ 先に読ませる

レイアウトは 横書き

見出しは 柔らかく

after

**「おまえは国民の敵だ」** 幹部自衛官が 民進議員ののしる

シビリアンコントロール(文民統制) 大丈夫なの?

**なぜ起きた?**

日報問題批判され不満たまる

自衛隊は2003〜2009年に、人道復興支援などのためイラクに派遣された。民進党の小西洋之参院議員は、この時の陸上自衛隊の日報(活動報告書)が「ない」とされていたのに出てきた問題について、国会で連日質問した。防衛省や自衛隊では、「わざと隠した」と批判されることに不満がたまっていった。

**「戦前の軍隊のよう」**

16日夜、防衛省の30代の男性自衛官が国会近くの道路で、民進党の小西洋之参院議員を「おまえは国民の敵だ」とののしった。この自衛官は中級幹部で、陸海空の自衛隊から選ばれた幹部が中心の組織「統合幕僚監部」に所属し、指揮通信の計画などを担当している。陸上自衛隊が人道復興支援などでイラクに派遣された時の日報が、防衛省などは「ない」としていたのになら出てきて、自衛隊は今混乱し、批判されていることへの不満がたまっている。

**シビリアンコントロールとは?**

戦争は命にかかわる問題なので、軍事については主権者である国民の意思を反映させる必要がある。そのため、国民が選挙で選んだ代表(政治家=文民)が最終判断の権利を持つ。この原則を「文民統制(シビリアンコントロール)」という。日本は戦前に軍が暴走し戦争になった反省から、憲法で「内閣総理大臣その他の國務大臣は、文民でなければならない」と定めている。

**「戦前の軍隊のよう」**

この自衛官は16日午後9時ごろ、国会の周りをランニングしていて、参院議員会館の近くの道路でたまたま小西議員と会った。小西議員によると、自衛官はその後約15分間、「国民の敵だ」「おまえの議員活動は気持ち悪い」などとののしった。近くにいた警察官が数人駆けつけた後も、自衛官は同じような発言を繰り返して、小西議員が止めてもやめなかった。小西議員がその場か

ら防衛省の担当者に電話で連絡したので、自衛官は最後には言ったことを取り下げた。小西議員はののしられた翌日の17日の参院外交防衛委員会で「自衛隊員として許されない」と言い、防衛省に調査を求めた。小野寺五典(いつのり)防衛相は「適正に対応する」と答えた。

**トップが謝る**

統合幕僚監部トップの河野(かわの)克俊統合幕僚長は同日、小西議員に謝った。この自衛官について、東京新聞の取材に「私のところに報告にも来るが、大変まじめな幹部自衛官」と話した。防衛省は「不適切な発言で、暴言とも受け止められかねない」として、詳しいやり取りを調べている。処分などをどうするかも考える。

やさしい日本語

東京新聞 次世代研究所

**新聞改造に挑戦**

若者に読まれる新聞をつくるには一。後編は実践編として、千葉商科大学(千葉県市川市)の学生3人に協力してもらい、「やさしい日本語」を使って記事の改造に挑戦。最近の本紙記事から3人が「難しい」と感じた記事を選んでもらい、文章やレイアウトの工夫を試みた。



改造前後の記事を見比べて感想を話す(左から)鈴木祥斗さん、西川沙希さん、林明香里さん。千葉商科大学の学生3人。

なじみのない言葉は わかりやすく説明を

漢字少なめに 洋数字を使う

before 声そろえ「難しい」

3人はいずれも2年生で19歳の西川沙希さん、林明香里さん、鈴木祥斗さん。「難しい」と声をそろえたのは、取材した4月18日の朝刊(最終版)社会面の記事=紙面を。 「漢字が多い」「経緯がわからない」「シビリアンコントロール(文民統制)」という言葉が初めて知った」などの意見が聞かれた。そこで、「やさしい日本語」を研究する一橋大学の助産学教授の監修で、文章を単純でわかりやすくし、経緯や言葉の説明は記事の外に出して目立つように。レイアウトや見出しは横書きにした。作家の半藤一利さんのコメントは、本人に表現の確認などが必要のため今回の改造では省略した。

after 「すんなり頭」

後日、3人に読み比べてもらった。西川さんは「前の記事は最初から漢字が13文字続いて読むのがしんどかったけど、漢字や全体の文字の量が減って、読みたくなった」と好印象。林さんも「経緯を別にまとめたので、わかりやすくなった。横書きだとすんなり頭に入る」と話した。

《その後》 防衛省は5月8日、自衛官を訓戒処分とした。暴言は「私的な言動」などとして文民統制への影響を否定。自衛隊法の「品位を保つ義務」に反したとしながらも、互いの主張が食い違っていることなどをまえ、懲戒処分はしなかった。小西議員が訴えていた「おまえは国民の敵だ」発言も事実認定しなかった。

文と写真 鈴木祥斗さん、西川沙希さん、林明香里さん

紙面構成 鈴木祥斗さん、西川沙希さん

デザイン 鈴木祥斗さん、西川沙希さん

